

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590200095		
法人名	医療法人 爽林会		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	都城市高城町穂満坊3213-2		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=4590200095-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=4590200095-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重度化しても安心、安全に入れる特浴を導入しており、又看取りも行きご家族と最後まで一緒に過ごす事が出来、家族もゆっくり過ごせるよう家族室も増設した。人生の最後を愛する人に囲まれながら穏やかに全うできるようDrと常に相談できる状況にある。スタッフも入所者の状態に応じフォローできる状態にある。広い敷地内には季節の野菜や花々が咲き、ホール内からも見れようになっている。収穫の喜びもありご家族も気軽に訪ねて来れる環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設備として特筆すべきは、ホーム単独で利用できる特殊浴槽の増設がなされたことである。介護度が高くなっても安心して入浴ができることは、利用者本人はもとより介護する職員にとっても負担軽減になっている。また、利用者や家族が看取りまでを望めば最後までホームでの生活ができ、家族がゆっくり過ごせる家族室も増設している。ホーム内は床暖房となっており、利用者は居心地よく過ごすことができている。法人は職員のキャリアアップにも理解があり、計画的な人材育成を行っている。さらに、ホームの周辺に広い畑があり、近隣の人の支援もあり、季節の野菜を植え、利用者が収穫を楽しむこともできる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げているがスタッフ交代を機に新しい理念を作成中。	見直しを念頭に職員一人ひとりが自分の目標、キーワードを持ち寄り、検討を進めている。理解しやすい言葉で介護の目標を掲げ、今年度末の完成を目途に取り組んでいる。1日に1度は仕事の合間にも、ふっと思い描ける理念を目指している。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し積極的に地域活動に参加している。ご家族も気軽に訪ねて来れる環境にありホームの畑の管理は近隣の方が手伝ってくれており、日常的に交流出来ている。	母体の法人が長年地域との付き合いがあり、ホームもその延長線上にある。近所の方が畑を耕し、季節の野菜を育ててくれる。利用者は生育過程を庭から眺めたり、収穫した新鮮な野菜を食卓で食べるなどしている。	従来の付き合いに加えて、双方向で交流できる仕組みの構築、ホームからの発信を期待したい。地域の文化祭への作品出展やホームへのボランティア要請等、運営推進会議での検討も期待したい。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方も参加し通報訓練や防災訓練を行っており、認知症の方への理解や支援を深めるよう働きかけを行っている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し利用者の状況や行事報告を行い外部評価、実施指導結果を議題に取り上げ意見を頂きサービス向上に努めている。	ホームの状況を報告するとともに、参加者からは地域の危険箇所や催しものなどの情報の提供を受けている。参加者の意見を受け、避難訓練時に車椅子の動かし方や乗せ方等を近所の人と一緒に実施するなど、実践に生かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂きその都度現状報告を行いアドバイスや情報を頂き良い協力体制にある。	運営推進会議には毎回行政からの参加があり、また、日常的にも連絡をとりあう関係を築いている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等でスタッフには十分周知し研修にも積極的に参加し理解を深めるようにしている。やむを得ず行う時はご家族に説明し同意を頂いている。	新人への教育も含め、日頃から拘束についての意識を高くもち介護にあたるよう努めている。利用者の状況によって、やむを得ずベッド柵を利用することがあるが、家族への説明と同意を得ており、最小限の時間にとどめ、状況記録を残している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加し常に自分の態度や言動が虐待につながっていないかスタッフ同士話し合っている。薬での拘束も行ってない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している入所者はいないが研修には参加し知識向上に努め相談できる環境づくりを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームを見学してもらい十分な説明を心掛けている。納得したうえで契約し署名捺印を頂くようにしている。面会時も不明な点等が無いが、こちらから声をかけ尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時は現状等、報告するようにしている。要望や意見も遠慮なく話していただけるように心掛けている。	来訪時やかかりつけ医受診の時に、家族からの意見を聞くようにしている。家族から本人ができることはできるだけやらせてほしいとの意見を聞き、職員もその意見を尊重して介護を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議を開き意見や提案を聴く機会を設け運営改善に努め、反映させている。	職員提案の意見も可能と思われるものはすぐに実行に移し、意見を尊重するようにしている。管理者は職場の雰囲気やモチベーションを大切にすることを心掛け、施設長との連携を十分とるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフとの面談の機会を設け勤務状況を把握し又管理者は利用者の状況に合わせてスタッフをフォローできる環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ全員が研修出来る機会を設け研修後はカンファレンスで発表しみんなで情報を共有し知識、技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャー協議会や医療機関が行う研修に積極的に参加し情報交換や連携を深めサービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子をよく見ながら表情や言葉、行動を常に観察し不安を取り除く努力を行い、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が遠慮なく質問したり困ったことを相談できる雰囲気づくりをし特に入所時は時間をかけて話をする時間を設け、いつでも面会できる環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、常にご家族と相談しながら要望を伺って他事業所とも迅速な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事には助言を頂きながら得意な事が発揮できる機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、ご本人を支える仲間としての信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化と共に身体面も重度化してきた為交流する関係は薄れてきているが一番信頼のあるご家族との関係が途切れない様努めている。	外出も短時間のみ、また、外泊も厳しい状況となり、なじみの人や場所との関係維持は次第に困難となっている。そのような状況にあるが、利用者が長年関わってきた伝統文化の継承支援について模索中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間づくりを行い、席の配置にも気を配っている。自由に話が出来た環境づくりを行っている。どうしても一人になる方はスタッフが間に入り話をつなぎコミュニケーションするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	頻繁な交流はしていないがええば声をかけたりしながら、いつでも相談に来れる体制にあり必要であれば対応できる状態にある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけご本人の希望が叶えられる様、ご家族の協力を頂きながら支援している。言葉で伝えることが出来ない方の思いも受け止め、本人の立場に立った考えで支援するようにしている。	利用者の発する声のトーン、眉間のしわ、立ち上がり行動、そわそわといった行動などで、言葉での意思表示が困難でも利用者の思いを理解するよう努めている。情報は共有して、利用者不安や苛立ちを抱かせないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で、その方の生きて来た軌跡をご家族と辿りながら把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活パターンやペースを大切にエンパワメントを引き出せる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフの意見を聴きながら一人ひとりのプラン作成を心掛けている。	ケア会議では全職員が意見を出し合い、家族の意見も参考にしながら介護計画を立てている。本人の趣味や能力を生かすこともプランに盛り込むようにしている。定期的に評価を行い、必要時には介護計画の変更もを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は具体的に記録。状態変化にも迅速に且つ柔軟な対応が出来ている。気づきや変化にはラインを引きすぐに振り返りモニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度必要性があると判断した場合柔軟な対応出来るよう施設長、管理者、看護師がスタッフのフォローに入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有効な地域資源の活用は少ないが、デイケアとの合同行事や年末のしめ縄づくりなど、少しずつではあるがご家族も参加して楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけとの医療連携体制にあり必要時は専門医への紹介や適切な医療が受けられる体制にある。	家族による同行受診を基本にしているが、やむを得ない時は職員が同行している。いずれの場合も利用者、家族、ホームの職員は情報を共有して、利用者が安心してホームで生活できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコールで看護師が関わっており、状態が変化した場合も速やかな対応が出来る。又他に准看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師2名がケアマネージャーでもあり入退院時の連携体制も整い、又状況把握のため病院関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針は入所時に文書化し十分な説明がなされているが状態の変化と共にDrご家族を交えインフォームドコンセントを十分にいき納得のいく支援を心掛けている。	利用者や家族が望めば最後までホームでの生活が可能であることを伝えている。関係者が十分に話し合い、納得のいく形で支援を行うよう努めている。看取りを行った場合、管理者と職員は他の利用者への配慮をより細やかに行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間オンコールで管理者、看護師と連絡が出来、迅速に駆けつけられる体制にあり、日頃から急変時の対応方法、応急処置等緊急事態を想定したカンファレンスも行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備えての回転灯の設置が出来ており近隣住民に通報出来るシステムが整っている。毎年近隣住民や消防団の方を交えた防災訓練、避難訓練がなされている。	利用者安否の確認ツールとして、背中に貼付するシールを作成して、近隣住民の協力を得やすくしている。夜勤の場合は、常にどのルートで誰から避難させるかを意識づけるようにしている。非常食は飲料水と缶詰を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは利用者一人ひとりを尊重した対応を行っているが、ご家族に了承を頂いたうえで呼びなれた名前でも声かけをしたりしている。	職員は、家族とも相談して呼びなれた名前でも利用者へ呼びかけている。尊厳に配慮しながら時には地元の言葉で会話をするなど、利用者一人ひとりの個性に合わせた対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のペースに合わせ、その人にわかりやすい言葉や方法、ジェスチャーを交えながら自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大切に希望に沿って支援している。時にはご家族に協力を頂き外出の機会を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	担当者が衣替えを行い、自分で好きな洋服が選べるように声かけなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好物などもご家族と協力しながら準備している。野菜の収穫に出かけたり簡単なおやつなどは一緒に作っている。	利用者ができることが次第に少なくなってきたが、できることは職員と一緒に行うようにしている。ホームの畑でできた野菜の収穫や加工も楽しみの一つであり、それを食することで食事をより楽しいものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立をもとに栄養が吸収できる工夫を行っている。食形態の工夫、水分チェック等を記録しチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔内を把握し毎食後、お茶でうがいをし、ジェルを使い口腔内の清潔を行っている。状態に応じて吸引器を使いブラッシングを行っている。夕食後は義歯を洗浄剤で消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿間隔や行動を見て把握し時間的に誘導している。夜勤帯はP-トイレを使用したりして排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの動作や表情、声などで察知してトイレに誘導している。トイレの場所を地元言葉で表現して、迷わないように工夫している。多尿や皮膚のトラブル等も利用者が不快にならないよう、夜間も細やかに対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう食事の工夫やマッサージ運動を行っているが必要時は緩下剤を使用。繊維質の多い食事便秘を引き起こすため、個人に応じた工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特浴を設置し介護度が高くなった方へも安全にゆっくりつかることが出来、ご家族からも喜ばれている。曜日や時間帯は決まっている。	一般浴槽と特殊浴槽があり、介護度の高い利用者も安心して湯船につかることができている。職員の負担も軽減され、利用者にとりをもって接することができている。特浴利用者には羞恥心への配慮をより一層心掛けるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠出来ない原因を探り出来るだけ排除して安眠できる環境を整えている。温かい飲み物や夜食なども提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤シートがファイルしてあり、いつでも確認できる。薬が追加になった時は注意事項や副作用についてファイルに記入し更にスタッフ全員に周知している。症状に変化があった時はすぐに看護師に報告、相談できる環境にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見極め、洗濯物量、掃除、新聞折り、野菜の収穫等、自分の出番を作り出すようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出等いつでも出来るようになってきている。スタッフと買い物に行ったり介護度の高い方は敷地内を散歩している。	車椅子の利用者が増え、みんなで一緒に出掛けることは厳しくなってきた。外出の頻度が減り、時間も短縮しているが、希望者には職員と一緒に買い物に行くなどの支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心できる方は、ご家族の許可を頂き持って頂いている。ご家族と外出時に簡単な買い物をする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるように支援している。手紙が書ける方は写真を添えたりして出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから外の畑が眺められ季節の花や野菜の成長を見ることが出来る。閉塞感もなくゆったり寛げるスペースになっている。	明るすぎず、暗すぎずを目安に、天候なども考慮してカーテンを活用したり、照明に最も気を遣っている。ソファも利用者の立ち上がりやすさを優先して交換している。寒さ対策として床暖房も利用し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置やクッションを使い思い思いの場所で寛げる居場所づくりを行っている。決まった場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との思い出の写真が飾ってあり面会時は自室でゆったり寛げる空間づくりを行っている。	利用者それぞれの個性が活かされる居室づくりを、職員も一緒に手伝っている。部屋の整理整頓、清掃なども利用者や職員は協力しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい言葉で表記し居室入口も人形などで目印を作り迷わない工夫を行っている。		